

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年8月21日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「かぶとむしを見てみよう、触ってみよう」

<テーマ設定理由>

前回はバッタとセミを見たり、触ったりして動きと感触から虫を感じる経験と触ったことで子どもがどのような関わりをするのかを探究活動とした。様々な自然物や虫を見たり触ったりする活動を計画している中で、今回は幼児クラスでも飼育しているかぶとむしをテーマに選んだ。

2. 活動スケジュール

- ・6月25日 カタツムリ、ミミズ
- ・7月22日 バッタ、セミ
- *毎月、すくわくプログラムを実施する以外にも虫を見たり触れたりしている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・保育室内を広く整える。
- ・観察しやすいように虫かごから出して触れられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・体を動かす遊びを楽しんだ後、広いスペースをつくってシートを敷き、かぶとむしの虫かごを出す。
- ・はじめは虫かごの中から様子を見られるようにした。
- ・覗き込むようにして眺めている。
- ・遠巻きに眺めて近づいてこない子どもがいる。
- ・虫かごから眺めた後、虫かごの蓋を外す。
- ・虫かごの上から眺める。
- ・蓋を取ったことで嫌なのか怖いのか、離れる子どもがいる。
- ・逆により興味をもって上から覗き込んで「おー！」と声を発したり、指差している子どもがいる。
- ・また少し慣れたところで虫かごからかぶとむしを出す。
- ・近くから眺めたり、遠くから眺める子どもがいる。
- ・自分から触ろうとする子どもがいる。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・かぶとむしがゆっくり動く様子などを、じっと見つめている。
- ・少しずつ近づいて指先を近づける。角の部分に指先で触れる。
- ・かぶとむしに気づいてはいるが興味を持たず、見ようとしない。
- ・指先で触れたことでかぶとむしが動いた。その場から離れていく。
- ・保育者の腕や手の上を動かすかぶとむしを見ている。
- ・保育者の手のひらや腕にいるかぶとむしに、子どもがそっと手を伸ばす。
- ・飼育かごの木の枝を手にする。その木の枝で保育士の掌に載せたかぶとむしをつつく。
- ・木の枝で突いてみたところあまりかぶとむしの動きに変化がなかったからなのか、枝で叩こうとする。
- ・目の前で足を動かしたり、保育者の腕をよじ登ったりする様子に、身を乗り出したり、指を伸ばしたりしている。
- ・体の部分を触る子ども、角の部分に触る子どもがいる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・「こわいけれど見たい」「触ってみたい」という好奇心とドキドキが入り混じった感情の動きがうかがえる。
- ・触れた子どもがいるが、角を触った子、体を触った子がいた。怖いながらも触ってみようとする様子を感じられた。角なら触れそうと感じたように見受けられる。
- ・近くの友だちも同じものを見つめている。「自分もやってみよう」という気持ちが芽生えているように感じる。
- ・子どもが保育者の表情や声かけを確かめながら手を伸ばしている様子から、「保育者がそばにいるから安心して触れる」という、信頼感に支えられて探索行動が広がっている。
- ・かぶとむしを保育者の身体にのせたり、手のひらを差し出したりする環境づくりによって、「大人と一緒に触れよう」という経験になっている。
- ・0歳児なりに、動くたび向きが変わるかぶとむしを何度も見返し、ケースから出たり入ったりする様子をよく見ている。
- ・このような体験から、虫ってなんだろう、不思議でおもしろい、と感じる機会が持てるきっかけになっている。
- ・かぶとむしとの出会いは、子どもの「命との出会い」になる良い機会だと思う。
- ・どのような環境構成で子どもが経験できるかを見直す機会にもなる。
- ・0歳児が「こわいけれど見たい」「触ってみたい」という揺れ動く気持ちを持ちながら、保育者の腕や手のひらを“安全基地”として探索している。信頼関係の大切さを再確認できる。
- ・同じかぶとむしを見つめたり、順番に触れようとする姿から、乳児であっても一緒に体験をすることを通して他児への関心や模倣が育っている。
- ・本物の虫を保育室に持ち込むことで「自然物・生き物と出会う環境」が子どもの五感と探究心を刺激する事を実感した。
- ・かぶとむしを「怖いもの」ではなく「不思議でおもしろい生き物」として出会わせる経験が、命の尊さや生き物へのいたわりを育てていく土台になる。
- ・自分自身の「虫が得意／苦手」という感情が子どもの受け止め方に影響することを体感し、必要に応じて知識を補ったり、距離のとり方を工夫したりしながら、子どもの好奇心を尊重する関わりを意識したいと感じる。
- ・0歳児では子どもと一緒に「わあ、動いたね」「ここにトゲトゲがあるね」と驚いたり発見したりすることで応答的に関わるのがすくわくであっても大切なのではないかと感じる。
- ・これからの環境構成や活動計画に自然体験を意識的に取り入れたい。